

おわりに

本校では、令和2年度、3年度の2年間にわたり「主体的・対話的で深い学びの実現」をテーマに、体育科の授業改善を通して研究を進めてきました。小学校の体育科では「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことを目指しています。生きる力の根幹となる知・徳・体の一角を担う重要な部分です。小学校の体育の授業で「運動することが好き」と思える児童を一人でも多く育てることが大切です。

2年間の研究を通して、児童の工夫を丁寧に価値づけていったり、単元を提示する際に児童が進んで取り組みたくなる設定にしたりしたことで主体的に取り組む姿が増えたと感じられるようになりました。これらの成果を「体育の授業をどう組み立てたらいいかわからない」「体育が苦手でどう教えたらいいかわからない」等と日々悩んでいる先生方にお伝えし、参考にさせていただきたいと考えております。そのためにできるだけシンプルにわかりやすくお伝えし、さらに資料をデータで配布させていただくことで活用しやすくなると思われました。ぜひ、本校の研究の成果を各校で参考にいただければ幸いです。

終わりにになりましたが、今回、教育課題実践推進校として発表させていただく機会をいただきました江戸川区教育委員会、並びに、2年間講師として御指導いただいた、元小学校教育研究会体育部長 佐々木昌則先生には、大変お世話になり感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

私たちの研究には「これで終わり」はありません。今後もさらに研鑽を重ねてまいりたいと存じます。今まで本研究に携わってくださった全ての方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

北小岩小学校 副校長 前田 真一

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ○研究推進副委員長

校長 藤島 寿晴 副校長 前田 真一

1年 小高 めぐみ 中野 今日子 2年 村越 優子 島田 征哉

3年 中村 美鈴 北岡 穂乃佳 4年 小池 孝之 ◎小林 祐也

5年 小林 哲 野田 亜紀子 6年 ○佐藤 美穂 大木 岳祥

音楽 河野 愛 図工 小野瀬 恵子 算数 齋藤 睦 養護 高柳 宏美

巡回指導教員 平田 真之 大園 三穂 加藤 龍大 小林 はるか 小泉 遼馬

松葉 はるか 堀 誉弘 渡辺 七以 今井 彩詠子

事務 吉田 美恵子 山田 ミカ 岩尾 貴子 小笠原 美貴

主事 長沼 恵利子 築場 博司

栄養士 為我井 恵

令和3年度 江戸川区教育課題実践推進校
教育課題「主体的・対話的で深い学びの実現」

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現
～体育科の授業改善を通して～



江戸川区立北小岩小学校

〒133-0051 東京都江戸川区北小岩2丁目15番1号

電話 03-3659-5351 FAX 03-3672-4654

HP <https://edogawa.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310084>

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びの実現～体育科の授業改善を通して～



はじめに

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るってもう2年となります。全世界の生活様式を一変させたパンデミックは、同タイミングで実施となった新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に、大きな影響を与えました。体育科の学習において、接触や密を避け、対話を制限するということは、教科の特性上難しく、扱うことのできない教材もでてきます。このような条件下で、前校長の高橋真先生をはじめとした本校教職員は、小学校6年間を通した運動領域にもかかわらずその指導方法に悩み、敬遠意識の高い教員が多くいる「体づくり運動」領域を通して、新しい子供の学びに沿った授業改善を目指そうと研究を始めました。2年間の研究は、子供の学びをさらに意欲的にし、他教科の学習にも連動し、生涯にわたって学び続けようとする姿勢を培うことを目的としています。これは、特段新しいことではなく、常に学校で行われてきたことです。それを丁寧に振り返り整理をして、今回、体育科の「体づくり運動」領域について、指導の経験や自信がない先生方へ提示しようと試みました。2年間にわたって本校の研究を見守りご指導をいただきました、元区小教研体育部長 佐々木昌則先生には大変感謝しております。各学年の授業研究では、翌日から自分の学級で指導に役立つアイデアを教えてくださいました。また、江戸川区教育委員会の千葉孝教育長をはじめ、各部所とりわけ教育指導課の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

江戸川区立北小岩小学校 校長 藤島 寿晴

《体育環境委員会》

○体育の授業での用具の準備や片付けの時間を削減したり、適切な用具を使用できるようにしたりするために、体育倉庫や用具の整理整頓を定期的に行っています。

○体力テストや水泳記録会などの記録を掲示し、児童一人一人が目標をもてるような環境づくりを行っています。

○わくわくタイムや体育の授業で活用したい資料等を準備し、どの教員も指導がしやすくなるようにしています。



令和3年度 6年生 校内水泳大会記録

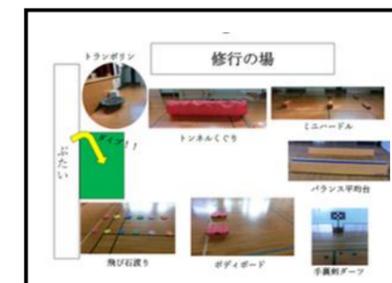
自由形(クロール)	平泳ぎ
1位 17.5秒	1位 23.6秒
2位 18.0秒	2位 25.8秒
3位 18.3秒	3位 26.8秒

《特別支援教育》

主に、運動に関わる感覚としては「触覚」「平衡感覚」「固有感覚」というものがあります。特別支援教室では、児童のつまずきに応じて『感覚統合あそび』を通して楽しく元気に活動できるようにしています。

活動のはじめには「コーディネーショントレーニング」を取り入れ、脳神経系に刺激を与えてからあそびに取り組むことで“学ぶ力”と“動く力”をより高められるように実践しています。

また、運動を行う際に、自己の体を円滑に操作するためには「ボディイメージの形成」と周囲との位置関係を把握する「空間認知能力」が必要となってきます。それらの力を高めるために「サーキット運動」で感覚をバランスよく使えるようにしたり、「模倣あそび」で他者意識を促しながら、イメージ作りやコミュニケーション能力を高めたりできるよう取り組んでいます。



発達のパラメータ

第四段階	情緒・社会性の発達	感覚統合の能力
第三段階	手の機能分化	言語機能
第二段階	ボディイメージ	運動コントロール
第一段階	姿勢	筋緊張
基礎感覚	視覚	前庭覚
	固有覚	触覚
		聴覚

迫るための手だて
研究主題に

主体的な学びを育むために

学習過程の工夫

児童が「やってみたい」と思えるような運動との出会いを設定した。また、見通しがもてる学習計画を設定することで、主体的な学びが単元を通して継続していくと考えた。

対話的な学びを育むために

伝え合いの段階表

伝え合いの段階を明確にし、その力が育まれるような手だてを設定した。6年間を通して、発達段階に応じた対話的な学びを習得・活用できるようにした。

深い学びを育むために

学びのサイクル

「課題設定・課題解決・振り返り」を繰り返しながら、よりよく課題を解決していくことを学びのサイクルであると考えた。そこで、これまでの経験を活用して学習できる手だてを設定することで、深い学びが生まれると考えた。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
低学年	北小にんじゃしゅぎょう 指導案 P1-4 へ! 指導案 P2-4 へ!	1年 言葉がけ 指導案 P1-6 へ! 2年 相手意識もたせる工夫 指導案 P2-7 へ!	学習カードの活用 指導案 P1-7 へ! 指導案 P2-8 へ!
中学年	わくわくアイランド! 冒険へ出発! 指導案 P3-5 へ! 指導案 P4-4 へ!	3年 声かけの見本 指導案 P3-7 へ! 4年 ねらいに合わせた言葉がけ 指導案 P4-6 へ!	次時を見通した 学習カードの工夫 指導案 P3-8 へ! 指導案 P4-7 へ!
高学年	体カアッププロジェクト 指導案 P5-4 へ! 指導案 P6-5 へ!	5年 言葉がけ例 指導案 P5-5 へ! 6年 言葉がけの段階表 指導案 P6-8 へ!	ポートフォリオの活用 指導案 P5-7 へ! 指導案 P6-9 へ!

低学年「北小にんじゃしゅぎょう」



2年「相手意識をもたせる工夫」



ポートフォリオの活用

6年生 体づくり運動「体の動きを高める運動」

書き方の例

組 番 名前

運動	《巧》G ボール	《要素「持」「巧」「柔」「力」》運動名
工夫の視点	もと 視点のみを残して他は消す。	姿勢 人数 用具 方向 回数 リズム もと
学習課題(動き)(視点)(ポイント・こつ)など具体的に書く	しっかりと上に乗る両手を広げてバランスをとる。おなかとお尻に力を入れて上半身がぶらぶらしないようにする。	(1)どのような結果を目指すのか (2)力を入れるポイントや動きのポイントなどを具体的に書く。
振り返り→次回に向けて	もとの動きに取り組んだ。最初は2-3秒だったが、両手を広げてお腹に力を入れると安定して10秒間もできたから、巧みな動きが高まった。	(1)取り組んだ動き。 (2)自分の変化や成果と課題。 (3)見つけたポイントやこつ (4)高まった力などを具体的に書く。
先生より		

中学年「わくわくアイランド! 冒険へ出発!」



3年「声かけの見本」

こんなこと言えたらいいな!

いっしょにやろう ナイス・がんばったね OOが上手だね

どうしたら上手にOOできる? OOしたら上手にできるよ

そのやり方教えてほしいな



その他の実践

《体育的活動：わくわくタイム》

全校一斉運動遊びとして、中休みと昼休みに設定しています。運動遊びを通して、運動への興味関心を高め、運動することを習慣付けることができるようにすることで、体力の向上を目指しています。1学期は、教師が中心となり、学級ごとにそれぞれの場で運動に親しまいました。2学期はたてわり班で行い、6年生がプレイリーダーとなり、異学年交流をしながら、運動に親しましました。



かけっこ遊び



思いつきスロー



なわとび



ラダー



固定遊具



ゴムとび

研究構想図

児童の実態

- 運動に対して意欲的な児童が多い。
- 運動に見通しをもって活動している児童が少ない。
- 友達の動きを参考にしたり、分かったことやできたことを伝え合ったりする児童が少ない。

体育科における教育的課題

- 新学習指導要領完全実施に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 児童の体力や運動に対する意欲の二極化
- 教員研修等を通しての指導力の向上

研究教科・領域：体育科・体づくりの運動遊び 体づくり運動

研究主題 主体的・対話的で深い学びの実現

～体育科の授業改善を通して～

目指す児童像

低学年：進んで運動遊びに取り組むとともに、運動遊びに触れ、考えたことを友達に伝えられる児童
中学年：運動の楽しさや喜びに触れ、課題を解決するために協力し、考えを伝え合う児童
高学年：運動の楽しさや喜びを味わい、自己の課題を見付け、関わり合いながら、解決の仕方を工夫できる児童

研究仮説

体育科の時間における児童の「主体的」「対話的」「深い学び」の姿を明確にし、その授業のねらいの実現に向けた手だてを考え、講じることにより、児童は運動の喜びや楽しさを味わい、進んで運動に取り組むことで、体力や運動に対する意欲を向上させることができる。